

平成28年度 教育事務事業点検評価報告書

平成30年3月
宮古島市教育委員会

目 次

事務事業の点検評価書発行にあたって	・・・・・・・・	1
1. 点検評価について		
(1) 点検評価の趣旨	・・・・・・・・	2
(2) 本市の主要施策		
(3) 点検・評価の方法		
2. 事務事業評価一覧表	・・・・・・・・	3
事務事業点検評価書		
1. I-1	学校施設改修事業	・・・・・・・・ 4
2. I-2	学校規模適正化の推進	・・・・・・・・ 5
3. I-3	学力向上対策事業	・・・・・・・・ 6
4. I-4	特別支援教育事業	・・・・・・・・ 7
5. I-5	選手派遣補助事業	・・・・・・・・ 9
6. I-6	教育の日市民大会	・・・・・・・・ 10
7. I-7	教育研究所運営事業	・・・・・・・・ 11
8. II-1	生涯学習振フェスティバル事業	・・・・・・・・ 13
9. II-2	公民館管理運営事業	・・・・・・・・ 14
10. II-3	図書館の基本サービス・行事の充実	・・・・・・・・ 16
11. III-1	各種スポーツ教室事業	・・・・・・・・ 18
12. IV-1	宮古島市民総合文化祭事業	・・・・・・・・ 19
13. IV-2	博物館企画展	・・・・・・・・ 21
14. IV-3	市埋蔵文化財公開活用事業	・・・・・・・・ 23
15. IV-4	自主文化事業	・・・・・・・・ 25

事務事業の点検評価書発行にあたって

平成19年6月27日に公布（平成20年4月1日施行）された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」第26条において、新たに教育委員会の所管する事務事業の管理及び執行状況について、外部の学識経験者の知見を活用し、点検及び評価を行い、その結果について、議会に提出するとともに、広く公表することとされました。

宮古島市教育委員会では、同法に規定する教育行政事務事業の点検評価をするにあたり、教育に関し学識経験者の意見を聴取する形の有識者会議を開催し、教育主要施策5項目のうちから15事務事業について、評価をいただきました。

教育委員会としましては、この評価を本市の教育行政に役立てつつ、さらに、市民からの情報、ニーズも幅広く収集し、事業の活性化と充実について、なお一層の努力を傾注するものであります。

平成30年3月

宮古島市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1. 点検評価について

(1) 点検評価の趣旨

本市においては、「個性豊かな文化をはぐくみ、一人ひとりが輝く島」をめざし、教育行政の指針となる教育施策を策定しました。その施策項目を基本とした各事業を展開し、その成果について点検評価を実施しました。この事務事業評価については、より良い教育環境づくりを推進するため、今後の施策展開に活用してまいります。

なお、この事務事業点検評価は平成28年度を対象とし、教育委員会の機能充実の視点から抽出いたしました。

(2) 本市の主要施策

- I 「学校教育」 生きる力を育てる学校教育の推進
- II 「社会教育」 みんなで学ぶ生涯学習
- III 「スポーツ振興」 スポーツアイランドの確立
- IV 「文化振興」 文化の振興と文化財の保存・保護並びに活用の推進
- V 「教育行政の充実・強化」 教育の使命を尊重する開かれた教育行政を目指して

(3) 点検・評価の方法

事務事業の点検・評価にあたっては、「必要性」「効率性」「有効性」を基準として踏まえ「A＝拡充」「B＝継続」「C＝改善」「D＝廃止」「E＝完了」の指標で、内部評価を行い、さらに有識者による点検・評価を行った。

(4) 外部評価委員（学識経験を有する者）

下地 信輔	元宮古島市教育委員
大城 裕子	宮古島市文化協会会長

2. 事務事業評価一覧表

評価書 番号	所 管 課	事 務 事 業 名	評 価
I-1	教育総務課	学校施設改修事業	C(改善)
I-2	学校規模適正化対策班	学校規模適正化の推進	A(拡充)
I-3	学校教育課	学力向上対策事業	A(拡充)
I-4	学校教育課	特別支援教育事業	A(拡充)
I-5	学校教育課	選手派遣補助事業	A(拡充)
I-6	教育総務課	教育の日市民大会	C(改善)
I-7	学校教育課	教育研究所運営事業	A(拡充)
II-1	生涯学習振興課	生涯学習振フェスティバル事業	B/C (継続/改善)
II-2	中央公民館	公民館管理運営事業	A/C (拡充/改善)
II-3	平良図書館	図書館の基本サービス・行事の充実	A(拡充)
III-1	市民スポーツ課	各種スポーツ教室事業	A/C (拡充/改善)
IV-1	生涯学習振興課	宮古島市民総合文化祭事業	A(拡充)
IV-2	総合博物館	博物館企画展	A(拡充)
IV-3	生涯学習振興課	市埋蔵文化財公開活用事業	B(継続)
IV-4	文化ホール	自主文化事業	B(継続)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：教育総務課

【主要施策】

I 学校教育 生きる力を育てる学校教育の充実

【事務事業名】

学校施設改修事業

【目的・計画概要等】

より良い教育環境を実現するため、老朽化に伴う改築、危険箇所の修繕工事等を行い、既存の学校施設維持管理及び安心・安全な教育環境の充実を図る。

【実施状況】

	決算額（財源内訳）	
	○幼稚園修繕 42件 2,482,644円	国・県
○小学校修繕 155件 12,275,036円	地方債	円
○中学校修繕 122件 10,769,808円	その他	円
○鏡原小学校増築 168,235,332円	一般財源	57,127,820 円
	計	193,762,820 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	各幼小中校舎の維持管理を図るためにも必要である。	総合評価：B（継続） 各幼小中の校舎等は、建築後数十年を経過し老朽化した建物が多数で、教育環境の安心・安全を図る上でも今後も継続していく必要がある。
効率性	コスト高であるが、教育環境改善を優先した。	
有効性	教育環境の改善が図られた。	

【内部評価】

学校施設改修事業は、昨年度の外部評価の指摘に基づき、小中校長会での説明等各学校からの情報連携、予算化、事務改善による予算の早期執行など改善を行っているところであるが、学校現場からはもっと迅速な対応を求められている。引き続き事務改善の工夫を行っていきたい。	総合評価 B (継続)
---	-------------------

【外部評価】

鏡原小学校増築工事費を引くと学校の修繕に使っている費用がおおよそ2,552万円、数にして319件、1件あたり8万円のこの数字を多いと見るべきか少ないと判断するべきか。鏡原中学校の体育館の雨漏りは、確認したところ4～5年前から修繕するも今だに雨漏れが発生している。北中学校の体育館のシロアリ被害も未修繕だと伺いました。 雨漏れとかシロアリの被害はほっておくと大規模な改修、および改修費が必要になると思われます。学校現場と綿密な修繕計画を策定し、十分な予算を確保し修繕することが無駄な出費を抑えることになると思います。当局には十分な予算の確保と事業体制の改善を希望します。	総合評価 C (改善)
---	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 学校規模適正化対策班

【主要施策】

I 学校教育 生きる力を育てる学校教育の充実

【事務事業名】

学校規模適正化の推進

【目的・計画概要等】

【目的】
教育環境の整備に向けて学校規模の適正化を図る。

【計画概要】

- ・平成31年度に伊良部・佐良浜小学校、伊良部・佐良浜中学校を統合した伊良部島小中一貫校を新設する。
- ・平成33年度までに福嶺中学校・城辺中学校・西城中学校・砂川中学校を1校に統合する。
- ・来間小学校、下地小学校については中学校の結果を見守り、統合の時期について速やかに決定する。
- ・福嶺小学校、城辺小学校、西城小学校、砂川小学校については、児童数の推移や中学校の結果を見守り統合の時期について速やかに決定する。
- ・北部地区中学校（池間・狩俣・西辺）、小学校（池間・狩俣・宮島・西辺）については、統合に関する課題の整理がつき次第、統合の時期や方法について速やかに決定する。

【実施状況】

<ul style="list-style-type: none"> ・伊良部、佐良浜小学校及び伊良部、佐良浜中学校統合協議会開催(第12～16回) ・城辺地区中学校統合計画策定委員会の設置及び開催（第1～4回） ・城辺地区24部落会長との意見交換会の開催。 ・「結の橋学園」学校建設基本計画検討委員会の開催・計画の策定。 ・結の橋学園校章原画審査委員会開催。 ・結の橋学園を佐良浜中学校に設置する条例改正議案可決（9月定例議会） <p>〈予算内訳〉 報償費(351,500円)・旅費(252,000円)・需用費(24,718円)・役務費(28,000円)・委託料(2,403,140円)</p>	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	3,059,358 円
	計	3,059,358 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	教育環境の整備に向けて、学校規模適正化の推進が必要。	総合評価：B（継続） 学校規模適正化基本方針に沿って、「複式学級の解消・過小規模校・小規模校の教育環境・教育条件改善」のため、進められている。結の橋学園の建設に向けた「建設基本計画」の策定、スクールバスのアンケート・校章原画審査会等、開校に向けて着実に進んでおり、城辺地区中学校の統合についても「統合計画策定委員会」が設置・開催されている。
効率性	予算の効率性は適正。	
有効性	城辺地区中学校統合や、結の橋学園の校章・校歌・制服の検討を開始した。	

【内部評価】

学校規模適正化基本方針に沿って、概ね順調である。城辺地区統合中学校の場所選定を平成29年度12月までには決定したい。北部地区については、3校統合してもなお、過小規模となることから、現在、課題の洗い出しを行っているところです。	総合評価 A (拡充)
--	-----------------------

【外部評価】

学校統合に関しては概ね順調に進んでいるように見受けられます。が、統合に反対する意見が最近数多く見られるようになってきました。説明会が終わったからではなく根強い反対意見に対し、なぜ統合を進めるのかを粘り強く説明することも大事かと思えます。大胆な発想での事業展開を期待します。	総合評価 A (拡充)
--	-----------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 学校教育課

【主要施策】

I 学校教育 生きる力を育てる学校教育の充実

【事務事業名】

学力向上対策事業

【目的・計画概要等】

宮古島市立各幼稚園、小学校・中学校の幼児・児童・生徒一人一人に確かな学力などの生きる力を育むことを目標に学校、家庭、地域が連携を図り、学力向上対策の事業を推進する。

【実施状況】

1. 宮古島市学力向上推進委員会及び実践成果報告会の実施 172,800円 2. 標準学力等調査及び生活実態調査（市単独4月実施）3,028,480円 基礎・基本の学習内容を中心に、児童・生徒の学力到達度を確かめるとともに、生活実態調査を行うことで学習指導・生活指導に役立てた。 3. 学力向上対策補助金交付 4,753,000円 幼稚園・小学校・中学校への補助金を交付することで、幼児児童生徒の確かな学力を育て、校（園）内の体制づくりの確立に役立てた。また、チャレンジ精神の発揚及び保護者負担の軽減を目的に、各種検定料の補助を行った。 4. 総合的な学習支援補助金交付 2,163,000円 5. 研究指定校補助金交付 平一幼・南小・平良中 873,000円	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	10,990,280 円
	計	10,990,280 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	本市の喫緊の課題である学力向上において、各種学力調査から明確になった課題解決に向け学力向上対策事業の継続が必要である。	総合評価：A（拡充） 標準学力調査及び生活実態調査等の結果から、各学校における課題が把握できる。学力調査では教師の授業改善に、生活実態調査では児童生徒の基本的な生活習慣等の改善につながった。 各種検定補助を行うことで、児童生徒の目的意識の高揚やチャレンジ精神の発揚につながった。 研究指定校補助では、研究の成果を宮古地区の各幼、小、中学校へ波及させることで本市の学力向上につながるものと考えている。
効率性	今年度の事業を継続し、幼稚園、小中学校における課題への対応を図ることで、各園及び小中学校の学力向上推進につながる。	
有効性	現事業を効果的に推進することで、全国学力・学習状況調査において、全国平均正答率5P以内が達成できる。	

【内部評価】

標準学力等調査では、小学校は全国水準を維持し、中学校は全国水準まであと一步に迫っていて、各学校の課題分析と授業改善の跡がみられる。又、総合的な学習支援は、総合学習の各学校の取組を支援しており、引き続き実施して参ります。研究指定校補助金交付については、各学校の研究報告を公開することにより、引き続き指導力の向上を図って参ります。	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

【外部評価】

標準学力調査や新年度の生活実態調査等の結果を踏まえ、児童生徒だけでなく父兄へもきめ細かな指導、助言を行なっているように感じた。学校単位でそれぞれの規模に応じた学力向上に向けての取り組みも見られ、成果も上がってきている。これからも奢ることなく教師のスキルをあげ学力向上に取り組んでほしい。	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 学校教育課

【主要施策】

I 学校教育 生きる力を育てる学校教育の充実

【事務事業名】

特別支援教育の推進

【目的・計画概要等】

宮古島市立幼稚園、小学校及び中学校に在籍し、障がい等の理由により特別な支援が必要な幼児・児童・生徒（以下「対象児童」という）に対して、当該対象児童が自立した学校生活ができるように支援及び補助を行うために配置し、本市における特別支援教育の充実を図る。

【実施状況】

平成29年度は202名の対象児童に対し、32名の支援員を配置した。年々増加傾向にある状況において本年度は、配置校へ訪問を行い、支援の現状や学校からの要望を聞き取り、一層の充実を図ることと、教育委員会と連携して推進することを確認した。学校からの要望として①支援員の増員 ②支援員の勤務日数の増加 ③支援員の質の向上（研修の必要性）等が上がった。学校においては支援員と特別支援コーディネーター及び担任との連携を密にして、子どもの困り感に応じた適切な支援の在り方について、校内の特別支援教育支援体制を一層充実を図ることを助言した。	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	38,534,780 円
	計	38,534,780 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	平成24年度に行われた文科省の調査から通常学級に6.5%支援の必要性がある児童生徒が存在することが公表されている。インクルーシブ教育が推進されている中で、保護者市民からのニーズは高まっており、さらなる拡充が必要となる。	総合評価：A（拡充） インクルーシブ教育の推進により、学校においては特別支援教育の理解や指導法改善が推進されている。本市においても年々、保護者や地域社会からのニーズの高まりとともに対象児童も増加している。合理的配慮を行うための施設、備品、教材等の「基礎的環境整備」や対象児童の安全面、生活面、学習面を支援する「支援員」の配置は必要不可欠なものとなっている。また、各学校において、支援員を有効活用するためには特別支援教育支援体制を充実させることや、個別の教育支援計画や指導計画のもと、教員と支援員の連携を密にすることが課題となっている。また教育に携わる職務であるため、資質能力を備えた人材の確保や、専門性の理解や支援スキルの向上を図るための研修の充実が今後求められる。
効率性	学習及び生活上の困難さを抱える児童生徒の対応は身体的、精神的にも負担が大きく、教育への理解や資質能力が備わった人材の確保が必要であり、それに見合った日給や業務日数の改善も必要である。	
有効性	特別支援教育の校内体制組織の一員として、担任やコーディネーターとの連携を密に行う時間確保。対象児童の自立に向けた有効な支援のための研修への参加等を充実させることで、対象児童生徒の自立を補助している。	

【内部評価】

本事業の対象者は、年々増加の傾向にあり、各学校では、支援の質と量に対する負担が増加している。発達障害対象者の把握を拡大するとともに、今後は、どのような体制で教育を行い自立に結びつけていくのか、急ぎ、体制の確立を行う必要がある。	総合評価 A （拡充）
---	-----------------------

【外部評価】

支援の必要な児童がこんなに多いとは驚きました。程度の差があるとはいえ支援員の皆さんは大変だと思います。待遇の改善を図り、夏休み等も何らかの関わりが持てるような施策を考え、支援員の夏休みになると無給というブラック企業まがいの待遇を改善するとか、またその期間をスキルアップのための講習や研修に当てるということを考えて欲しいと思います。

総合評価

A
(拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課 名： 学校教育課

【主要施策】

I 学校教育 生きる力を育てる学校教育の充実

【事務事業名】

選手派遣補助事業

【目的・計画概要等】

宮古島市は、島嶼県の離島であると同時に、世帯所得水準の低い中、児童生徒がスポーツ・文化活動で県及び全国大会等へ出場する際の旅費の捻出が、保護者にとって大きな負担となっています。地域ハンデを是正し、児童生徒の自ら学ぶ意欲の高揚を図り、地区選抜代表選手として県大会や全国大会へ派遣される際の旅費の支援を行う。

【実施状況】

スポーツ・文化活動の地区選抜代表選手として、県大会や全国大会へ派遣される際の旅費の一部（県内：航空運賃の1/2 県外：7/10）を支援する。 総務費：14,196,785円 教育費：2,194,958円 合 計：16,391,743円 小学校 県内： 589人 県外： 54人 中学校 県内： 992人 県外： 58人 合 計 県内：1,581人 県外： 112人	決算額（財源内訳）	
	国・県	10,773,000 円
	地方債	円
	その他	2,090,000 円
	一般財源	3,528,743 円
	計	16,391,743 円

【担当者説明】

区 分	説 明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	派遣費支援による保護者負担の軽減。	総合評価：B（継続） 島外へ派遣される児童生徒への旅費の支援として、事業を執行した結果、すべての支援申請に対応することができたため、事業は適切に執行されています。又、保護者負担の旅費軽減を図ると共に、多くの児童生徒が自ら学ぶ意欲の高揚を図ることができ、今後も継続していく必要があります。
効率性	地区選抜代表選手として県大会や全国大会への派遣。	
有効性	児童生徒の自ら学ぶ意欲の高揚。	

【内部評価】

近年は県大会での成績優秀者が多く、県外への参加が増加傾向にあることから、予算の確保が課題であるが、出来る限りの対応を行って参ります。保護者の負担軽減を図る為の検討を進める必要があります。	総合評価 B （継続）
---	-------------------

【外部評価】

スポーツや文化面において宮古島の児童生徒は素晴らしい能力を発揮しています。しかし、島外や県外のスポーツ、文化行事が多くなると父兄の負担は並大抵ではありません。生徒の旅費は出るが外部指導者の旅費はありません、ではなく教師の負担を減らすためにも外部指導者の登録制度等を考え、外部指導者のコーチや監督も公費で派遣できないか考える必要があると思います。	総合評価 A （拡充）
--	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 教育総務課

【主要施策】

I 学校教育 生きる力を育てる学校教育の充実

【事務事業名】

教育の日市民大会「宮古島市の教育を語る市民大会」

【目的・計画概要等】

教育に対する市民の関心と理解を一層深めると共に、家庭学校及び地域社会の連携の下に市民全体で教育に関する取り組みを推進し、もって本市教育の充実及び発展を図るため、宮古島市教育の日を定める要綱により2月の第3日曜日に、教育の日について啓発を行うと共に、教育の日にふさわしい事業として「宮古島市の教育を語る市民大会」を開催する。

【実施状況】

宮古島市の教育を語る市民大会 ・教育の日表彰（中学生2名、高校生1名、社会人1名） 表彰者は次年度の宮古島市夢実現助成事業の対象者 ・教育の日標語（応募総数86点 小学校30、中学校15、高校一般41） 最優秀各1点の合計3点、優秀各2点の合計6点が入賞 ・実践報告「本市の学力向上対策について」 学校教育課指導主事 ・基調講演「逆転発想の勝利学：リオ五輪バレーボール全日本女子監督眞鍋政義氏」 ・質疑応答、眞鍋氏への質問を事前に応募し、基調講演後小中学生6名による質問コーナーの実施	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	721,207 円
	計	721,207 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	地域社会への啓発が、人材の育成と生涯学習の振興に寄与する。	総合評価：C（改善） 本事業は、人材育成と生きがいある生涯学習社会の実現を目指し、内外に広くPRすることで地域社会へ啓発を促す事業である。継続して実施することで宮古島市の発展を推進していくものと考えている。現状は、一般参加が少なく、効率・有効性を高めるために改善が必要である。
効率性	啓発事業として、時期対象とも適切であり、相当の効果を期待できる。	
有効性	教育に対する関心は高まり、継続実施により理解を深めていける。	

【内部評価】

教育の日事業は、表彰と標語・川柳の選定、学力向上報告、夢実現事業、市民大会という一連で形成されており、市民への教育に対する啓発を行っているところであるが、一般参加が少なく、効率性・有効性を高める工夫が必要である。又、生涯学習との連携、「未来創造センター」の有効活用も今後検討する必要があります。	総合評価 C (改善)
---	-------------------

【外部評価】

教育の日は、学校現場では負担になっていないか。一連の事業が形骸化していないか。教育の日のあり方、「宮古島市の教育を語る市民大会」を開くことが目的になっていないか等々、一年を通して教育の日は何をすべきか、課題が多いと思いますが、PTAだけでなく市民の一人一人が参加したいと思う教育の日を目指し頑張ってください。	総合評価 C (改善)
--	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課 名： 学校教育課

【主要施策】

I 学校教育 生きる力を育てる学校教育の充実

【事務事業名】

教育研究所運営事業

【目的・計画概要等】

<p>教育に関する専門的・技術的事項の研究及び教育関係職員の研修を行う(宮古島市立教育研究所設置条例第1条)</p> <p>宮古島市立教育研究所は、生涯学習への視点に立って、学校教育、社会教育、家庭教育の直面している課題を積極的に取り上げ、教育実践に結びつけた教育活動の推進に寄与する。</p> <p>(1) 職員は自らの資質を高めるように努力し、協働体制のもと、子ども・学校・保護者への支援を行う。</p> <p>(2) 本市の現状を把握し、教育現場のニーズにあった援助を行う。</p> <p>(3) 各教育機関との連携を図り、効果的な援助を行う。</p>

【実施状況】

	決算額 (財源内訳)	
1. 調査・研究 ① 現在行われている調査の結果分析 (全国学力・学習状況調査、県学力到達度調査等)	国・県	円
2. 研修 ① 長期研究教員… 後期(小学校国語科・中学校社会科) ② 研究所主催の研修会(教育ICT、道徳授業作り、小中英語、小中体育、他) ③ 宮古教育事務所の研修会との連携 (初任者研修、5年・10年経験者研修、校内研担当者研修会) ④ 琉球大学教育学部との連携による研修会 ⑤ 文科省調査官招聘事業の推進(小学校理科公開授業及び調査官講話)	地方債	円
3. 情報・広報 ① ホームページを通して研究情報を発信し、情報の共有化 ② 研究教員報告書、まていだ教室実践報告書を刊行し、教育関係者への提供 ③ 教育相談室、まていだ教室はリーフレットを作成及び周知	その他	円
4. 教育相談 ① 来所相談、電話相談、学校・家庭訪問相談等の実施	一般財源	6,554,262 円
5. 適応指導教室 ① 不登校及び発達障害のある児童・生徒への対応	計	6,554,262 円

【担当者説明】

区 分	説 明	担当者(主管課)評価・コメント
必要性	教育に関する専門的・技術的事項の研究及び教育関係職員の研修は、学力向上を推進する基礎をなすものであり、教員の資質向上を図ることは市の基本政策方針を進める上での重要事項である。	総合評価：B(継続) 本市は離島という特性から、高レベルの研修を受ける機会に恵まれていないのが実情である。その意味において、文科省調査官や大学教授等の講師招聘は、研修会の質を高め、教員の指導力向上や資質の向上に繋がっている。また、全国学力・学習状況調査における課題分析。課題改善に向けての長期研究教員による研究成果報告や現場復帰後の継続した取り組みにより各種学力調査の成績にも徐々にその効果が現れてきている。 学校教育においては、年々、いじめや不登校等へのきめ細やかな対応への重要性が高まってきているが、学校のみならず、家庭教育への支援も視野に入れた行政側(市)の支援が、「生きる力を育てる学校教育の推進」という市の基本政策を押し進めていく上でも重要である。そのために、適応指導教室や教育相談員による不登校児童生徒やその保護者への対応・支援は、今後も維持継続を図っていく必要がある。
効率性	長期研に伴う研修会や調査官や大学教授招聘研修会に多くの教員が参加し成果を各学校に持ち帰る事で、研修の効率化が図られ、研究教員の継続した取り組みがその効果を持続させる事になる。	
有効性	研究教員による研究成果の共有や学校現場復帰後の継続的な取り組みが児童生徒の学力向上に直接的な効果をあげ、同僚教諭への波及効果がさらに成果を上げていくものと期待できる。	

【内部評価】

教育研究所の業務のうち、研修制度は教員の質の向上を目的に設置されており、研修成果はあるものの、成果の共有に改善が必要である。又、教育相談は、学校、保護者、一般とも個別対応であり、システムの構築による効率的な仕組みづくりが必要である。発達障害や子供の貧困対策、学校と福祉関係との連携や調整をコントロールするための仕組みづくりを今後検討する必要があります。

総合評価

A
(拡充)

【外部評価】

厳しい予算の中かなりの成果が認められる。しかし、研究成果が個人のものになってしまっ
てはいけない、研究成果をより共有するための施策が欲しい。学校規模の縮小によって図書士や音楽、美術教師等の専門職が不足しているので何らかの手を打つべきではないかと思う。

総合評価

A
(拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 生涯学習振興課

【主要施策】

Ⅱ 社会教育 みんなで学ぶ生涯学習

【事務事業名】

生涯学習フェスティバル事業

【目的・計画概要等】

目的：
広く市民に学習活動の成果を発表し、学習情報を提供することにより市民一人ひとりの生涯学習への意欲を高め参加を促進する事を目的とする。

計画概要：

- 作品展示（婦人連合会・子ども会・教育事務所・青少年の家・放課後子ども教室・総合博物館・文化財係・社会教育係・食育関係）
- 体験コーナー（ロボット体験・プラ板クラフト・放課後子ども教室・食育SATシステム）
- 舞台発表（公民館講座関係・社会教育団体）

【実施状況】

開催日：平成28年11月13日（日） 場所：宮古島市中央公民館 参加団体：作品展示部9団体・経験コーナー部4団体・舞台発表部26団体、参加人数：約400名 開催当日は、オープニングセレモニーで生涯学習フェスティバルを盛大に開催するとともに宮古島市の社会教育に貢献してこられた個人及び団体の表彰や、社会教育関係団体、公民館利用団体等による学習成果展示・発表を行い参加者相互の交流と社会教育活動の促進を図った。	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	248,100 円
	計	248,100 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	社会教育団体や公民館で活動する団体の活動成果を発表する場が必要である。	総合評価：C（改善） 生涯学習フェスティバルは、公民館を年間とおしての活動として、11月に開催しているが、開催時期が他のイベントと重なることが多く、日程の確保に苦慮している。また、参加できる団体数が限られていることもあり改善が必要。 この公民館講座関係団体が主であり、「公民館まつり」の要素が大きい中央公民館と調整を図る必要がある。
効率性	各種団体を一堂に会し学習発表するため、フェスティバルの開催は効率性が高い。	
有効性	活動を発表する場を設け、参加団体の皆さんの学習意欲を高め、市民に対して生涯学習の振興を図ることができた。	

【内部評価】

一年間講座等で学んだ生涯学習成果を発表する随一の機会であり、記念講演や体験・実演コーナー、舞台発表などを行い、相互の成果を発表して交流を深めている。 今後は、市民のニーズに沿った講座や体験、実演コーナーなどの充実を図るとともに、さらなる生涯学習の普及・啓発活動を展開する必要がある。	総合評価 B （継続）
--	-----------------------

【外部評価】

市民一人ひとりが日々の暮らしをより心豊かなものにしていくうえでも、主体的に生涯何かを学び続けるという姿勢は重要である。その学びの入り口として、公民館や地域に於ける各種講座や教室がもつ役割は大きい。また、その成果発表の場としての「生涯学習フェスティバル」は受講者や参加者にとって、大きな目標となっている。 半面、フェスティバルの名称や内容に関しては、会場となる公民館とも連携しながら、時代に即した催しとなるよう再考する必要がある。 「いつでも」「だれでも」「どこでも」という生涯学習の理念を実現できる「場」「機会」となるよう、今後も事業を継続する必要がある。	総合評価 B/C （継続/改善）
--	----------------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課 名： 中央公民館

【主要施策】

Ⅱ 社会教育 みんなで学ぶ生涯学習

【事務事業名】

公民館管理運営事業

【目的・計画概要等】

市民の学習ニーズに対応した事業を企画実践するとともに、市民への学習の場を提供し、人づくり・地域づくりに貢献する拠点としての社会教育（生涯学習）施設とする。

公民館名	主な講座名	サークル活動
中央公民館	花づくり講座・タブレット講座・健康体操講座 外17講座	手話サークル虹 外25団体
城辺公民館	パソコン講座・夏休み子ども絵画教室 外12講座	城辺女声コーラス
上野公民館	いきいきシルバー講座・夏休み親子陶芸講座 外15講座	親子フラダンスの会 外4団体
下地公民館	料理講座・有酸素運動講座・タブレット講座 外17講座	ヨガサークル 外3団体
伊良部公民館	琉舞講座・三線講座・パソコン講座外 7講座	書道サークル 外4団体
松地区公民館	キッズフラダンス講座・初めてのアロマ講座 外7講座	風の神太鼓 外5団体
下崎地区公民館	筋トレ（ストレッチ）講座・社交ダンス講座 外6講座	琉球舞踊サークル 外1団体
西原地区公民館	壁掛けシーサー講座・花で和むお正月講座 外7講座	コーラスゆりの会 外2団体
	全 9 6 講座	全 5 2 団体

【実施状況】

	講座回数	募集定員	受講者数 (延べ)	決算額	決算額（財源内訳）	
					国・県	円
中央公民館	103	333	1,610	20,263,578	地方債	円
城辺公民館	99	178	784	14,425,113	その他	円
上野公民館	91	310	869	8,922,778	一般財源	79,346,922 円
下地公民館	95	349	1,335	8,642,787	計	79,346,922 円
伊良部公民館	50	125	708	13,036,051		
久松地区公民館	50	134	620	4,053,958		
下崎地区公民館	50	145	765	3,830,466		
西原地区公民館	50	125	721	4,139,052		
合 計	588	1,699	7,412	77,313,783		
※ 板倉区交流事業、博愛の日作品展示事業、白川町海山交流事業、台湾国際交流事業				計2,033,139円		

【担当者説明】

区 分	説 明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	市民の教養の向上、健康増進を高めるため、講座やサークル等を推進している。 地域の生涯学習の場として必要性は高い。	総合評価：B（継続） 近年、市民の学習意欲が高まっている中、市民が公民館に求める役割は年々増加傾向にあり、市民が満足感と充実感を求める講座・サークル活動内容の充実を図るとともに、市民が楽しく学べる生涯学習の場としての公民館運営が重要である。
効率性	平成28年度予算額での96講座は、市民の学習意欲向上、時代に対応した市民講座の開設と、健康増進効果意欲に寄与している。	
有効性	講座やサークル活動等を通し、市民の学習の場、ふれあいの場や憩いの場として、多くの市民が活用されるように努める。	

【内部評価】

<p>生涯学習の拠点として各公民館は重要な施設であり、各公民館で開催される各種講座や教室、サークル活動は、市民のニーズに対応しており、市民にも好評を得ている。今後も各公民館の果たす役割は大きく、市民の生涯学習の場としてさらなる講座内容の充実を図るとともに、未来創造センターの開館に向けて、なおいっそうの講座の充実を図る必用がある。</p>	総合評価
	A (拡充)

【外部評価】

<p>各公民館とも地域のニーズに応じた講座・教室や職員の情報収集によって生まれた新しい講座等を多彩な内容で実施している。また、各種サークルの活動拠点としての場を提供しながら、地域住民の教育や交流の場としての役割も担っている。今後はさらに講座や各種事業に関して市民への周知を図るため、より多くの情報発信を行うことが望ましい。公民館活動に対して関心と興味をもって積極的に参加する人々がいる一方、若い世代を中心に公民館活動へ関心を払わない、関心があっても参加する時間がない、参加する方法を知らないという人々が増えている状況において、インターネット等を利用した情報発信は不可欠であり、一人でも多くのファーストユーザー（特に若年層）を獲得できるよう努力する必要がある。</p> <p>今後も各公民館の独自性を発揮しながら、地域住民の社会教育の中核として地域密着型の公民館活動が活性化するよう、事業の拡充が必要である。</p>	総合評価
	A/C (拡充/改善)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：平良図書館

【主要施策】

Ⅱ 「社会教育」 みんなで学ぶ生涯学習

【事務事業名】

図書館の基本サービス・行事の充実

【目的・計画概要等】

1. 図書館サービスの充実
 宮古島市立図書館は、本市基本施策を踏まえ、図書館基本サービスの充実を図り、学校図書館との連携拡充、地域の読書活動・関連団体を支援し、子どもからお年寄りまですべての市民が日常的に必要な図書館の基本的なサービスである「貸出し」を気軽に利用でき、地域の魅力ある文化・情報等が学習できる施設であることをふまえ、市民を対象とした貸出サービスを基本に、レファレンス（調べ物・読書案内）、リクエスト（予約）などを親切かつ的確に行い、市民の生涯学習向上と地域課題解決を支援する「市民に役立つ図書館」を目指し図書館サービスに努めます。
 遠隔地住民に図書館サービスが行き渡るように、移動図書館車の利用促進を図り、住民ニーズにあった資料を定期的に利用できるよう努め、図書館遠距離地域への周知拡大を図りサービスを拡充します。

2. 図書館行事の充実

①おはなし会（平良図書館・城辺図書館）
 時事、季節、郷土（民話）等を題材に幅広い資料と技法で、早期の読書習慣の確立と環境整備をすることを目標に定期的に開催。低年齢児から図書館を生活環境の一部として親しませ、認識させる。

②学級招待（平良図書館）
 園児・児童を招いて館内施設・資料の利用方法や紹介を行い、ボランティア協力によりミニおはなし会を実施し図書館に親しみをもたせる。保育者・教職員に資料を紹介し団体貸出による学級文庫設置を奨励し、園・校内における読書環境整備を側面から支援する。

③出張おはなし会（平良図書館）
 早期読書習慣確立と幅広い資料の紹介をする。ボランティア協力の下、依頼に応じた題材で実施する。

④納涼おばけまつり（平良図書館）
 夏休み期間中に、夜間開催し怪談中心のおはなし会を実施した。ボランティア・職員によるお化けの変装など工夫をこらしたイベントで親子連れを楽しませた。みらい号Ⅱ世による関連本の貸出サービスも実施。

⑤子どもシアター（平良図書館） おはなしひろば（城辺図書館）
 こども読書週間にちなみ実施される。広報拡大と多彩な演目で多数の来館があり、普段図書館利用のない世帯に資料紹介と利用を促す機会となる。

⑥サマースクール（城辺図書館）
 夏休み期間中、小学生を対象に専任講師を招き感想画指導を実施する。低・高学年それぞれ15人を定員とする。

⑦平和資料展（平良図書館・城辺図書館）
 毎年6月に「慰霊の日」にちなみ沖縄戦関連資料の特別設置と貸出を実施する。

⑧郷土史講座（北分館）
 地元郷土史研究会による手作り講座。各会員がそれぞれのテーマに沿って講義を行う。

【実施状況】

	平良図書館		北分館		城辺図書館		決算額（財源内訳）		
	H 2 7	H 2 8	H 2 7	H 2 8	H 2 7	H 2 8			
登録率	43.6	38.4	※ 3館合計の登録率				国・県		円
貸出冊数	140,072	135,630	6,078	6,558	39,031	39,017	地方債		円
利用者数	40,583	39,871	2,285	2,455	9,100	9,349	その他		円
レファレンス数	979	1,417	336	206	285	190			
リクエスト数	163	110	45	25	49	72			
上記数値では、移動図書館車等の雨天中止による影響等で前年度より貸出冊数が減している状況であります。今後は各学校等との連携を調整対応して取り組んでいきます。							一般財源	121,259,545	円
							計	121,259,545	円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	市民の教育（養）向上、調査研究に資（供）する機関で有り、館の活動は年を重ねる毎に発展している。市民生活・学力向上のため更なる拡大と充実が必要である。	<p>総合評価：A（拡充）</p> <p>平成28年度の登録者数は、20,876人で前年度の23,472人と比較して2,596人減しています。減の理由として、5年前の城辺図書館とシステム統合した際に重複利用者がいましたので、重複利用者等の確認を実施した結果、登録数の減になった状況であります。</p> <p>貸出冊数は、去年の185,181冊から181,205冊で3,976冊減している。減している状況として、移動図書館車等による雨天中止時によります学校・施設等への移動ができなかった状況になり、今後は学校・施設等と日程調整を確認して取り組んでいきます。また少子高齢化が大きな社会問題となっている現代において、生涯学習が果たすべき役割は、毎年その規模が拡大している。宮古島市のように住民年齢層の約3割が、60歳以上を占める自治体では、その整備と充実が急がれる。</p> <p>そこで、毎年高齢者利用が延びてきて、高齢者の生涯学習に図書館利用が浸透してきたと判断し、今後も世代別の資料ニーズを的確に分析・把握し益々発展させていくため未来創造センター（仮称）の建設が進められています。他の年齢層では、30代から50代の増加は去年と同じく増加していて、16歳から20歳後半の利用者の延びは去年より若干延びてきています。細かな改善点等丁寧の対応し、未来創造センター完了に向けて、職員の質の向上を図り、市民協働の「地域に役立つ図書館」を目指していきます。</p>
効率性	宮古島市立図書館は、図書館のない区域や遠隔地において移動図書館車での巡回サービスを行い、北分館においては郷土史収集、保管を主として教育と研究調査が対象となるため、地域（郷土）史研究家や学校教育機関ととの連携が求められる。貴重資料の電子化などの多角的な閲覧方法で効率性の向上を目指す。	
有効性	保育・幼稚園等で学級文庫設置を奨励し、新鮮な資料を効率的に配送し支援している。市民の生活形態に即応した移動図書館車のステーションにより資料を提供し、各種図書館行事を通じた読書環境整備・習慣化の支援を図り、市民の要求する情報を提供することで、市民生活向上に効果をもたらしている。	

* 総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【内部評価】

<p>図書館は本を通して市民の学習や調査研究、課題解決を支援する知の生涯学習の中心施設である。図書館の基本サービスである貸出には、豊富な蔵書が必用である。移動図書館は、図書館から遠い地域や来館できない市民へのサービス、又児童生徒への学校図書館を補完する重要な役割を担っている。季節ごとの行事や記念日などのイベントは市民と図書館を結びつける大切な活動である。図書館の基本サービス・行事の充実を図るために継続して蔵書の質、量及び四季おりおりの行事の拡充を図る必用がある。また、未来創造センターの開館に向けて郷土資料や蔵書の拡充を図る必用がある。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (拡充)</p>
--	-------------------------------

【外部評価】

<p>平成28年度の図書館利用者数を見ると、前年度比で北分館、城辺図書館共に増加、平良図書館がほぼ横ばい。本離れが進む中で数字を落とさない努力をしていることを高く評価したい。サービスの充実を図るとともに、図書館ごとの行事にも創意工夫を重ねていることが数字に反映されている。各館の多彩で充実した行事内容には、職員の情報収集力の高さとコーディネート力の高さがうかがえる。</p> <p>内部評価にも記されている通り、移動図書館は、遠隔地や来館できない市民へのサービス、また、児童生徒に対して学校図書館を補完する重要な役割を担っている。平成28年度の貸出冊数減の理由として、移動図書館車の雨天による学校・施設などへの配車中止が挙げられているが、移動図書館車を目標通り稼働させていくためには、天候に左右されない状況下での図書提供が可能となるよう考えていかなければならない。受け入れ側の学校や施設に理解を求め、天候に左右されずに利用できる状況を整えてもらうために双方で考えていく必要がある。</p> <p>図書館はその地域の「知」のバロメーター。今後も蔵書の質と量、各館の独自性のある行事の拡充を図りながら、市民の教育、教養の向上と調査研究を支える機関としての役割を担っていただきたい。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (拡充)</p>
--	-------------------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：市民スポーツ課

【主要施策】

Ⅲ「スポーツ振興」 スポーツアイランドの確立

【事務事業名】

各種スポーツ教室事業

【目的・計画概要等】

市民の健康増進や体力づくりに寄与するため、広い年代層が気軽に楽しむことの出来るニュースポーツを普及することを目的とした教室を開催する。
また、市民の生涯スポーツの普及・啓発に取り組む組織であるスポーツ推進委員協議会の県大会が宮古島市において開催されるため、これを機会として組織の強化やより一層の活動促進につなげる。

【実施状況】

	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
ファミリーバドミントン教室(推進委員)・ウォーキング教室 (講師：宮古島市スポーツ推進委員) 場所：総合体育館・伊良部大橋周辺 日時：平成28年8月27日 13:00～17:00	地方債	円
ファミリーバドミントン教室(城辺地区) (講師：宮古島市スポーツ推進委員) 場所：城辺トレーニングセンター 日時：平成28年10月23日 13:00～17:00	その他	円
	一般財源	403,341 円
	計	403,341 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	市民の健康・体力づくりを図ると共に、ニュースポーツを紹介することにより、市民に運動に親しんでもらうことに繋げる。	総合評価：A/C（拡充／改善） スポーツ推進委員は、市のスポーツ推進事業への協力や、市民へのスポーツの普及などに取り組む組織です。本年度は、家族や仲間同士で気軽に楽しむことができるニュースポーツ「ファミリーバドミントン」の普及に取り組みました。 スポーツ推進委員を中心に教室等を開催することで、参加者の増加や、ノウハウの蓄積が見込まれることから、効果的だと考えますが、今後は、各競技団体とも連携しながら他の種目の実施についても検討し、市民が各年齢や体力に怖じてスポーツに取り組める環境づくりに努めていきたいと思ひます。
効率性	教育委員会の委嘱する組織であるスポーツ推進委員を中心に活動することにより、担当課と密に連携した取り組みを行える。また、同上の理由により施設使用料が発生しない。	
有効性	各推進委員が繋がりのある市民(地元など)に参加を呼びかけることにより、参加率の増加が見込める。また、多年度に渡って継続的に活動することによって、スキルアップに繋げることが出来る。	

【内部評価】

沖縄県が長寿県から脱落して久しくなる。宮古島でも肥満率や高血圧、糖尿病の成人病が全国平均を上回り平均寿命も県内でも最下位で、運動量も全国平均を下回っている。市民の健康増進や運動への市民の意識は低い。本事業は、市民の運動や健康増進への動機付けの有効性は高い。本事業の各種スポーツ教室事業は継続して拡充を図る必用がある。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

【外部評価】

一億総活躍社会の実現を目指すためには、国民の健康寿命を延ばすことが最優先事項。日常的・継続的な医療・介護に依存せず、自分の心身で生命を維持し、自立した生活を続けていくうえで日々の適度な運動は不可欠である。市民に運動の習慣をつけさせるためには、「いつでも」「どこでも」「だれでも」楽しめるスポーツを積極的に紹介していく必要がある。ニュースポーツも取り入れながら、各年齢層や体力に応じたきめ細かな普及促進への取り組みを期待したい。 平成28年度は単発的な事業となっているが、職員の負担が過剰にならない範囲で教室の開催数を増やし、定着させていくことが望ましい。	総合評価 A/C (拡充/改善)
--	------------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評

課名： 生涯学習振興課

【主要施策】

IV 文化振興	文化の振興と文化財の保存・保護並びに活用の推進
---------	-------------------------

【事務事業名】

宮古島市民総合文化祭事業「児童・生徒の部」・「一般の部」

【目的・計画概要等】

1) 児童・生徒の部 (主管:宮古島市教育委員会)	目的:「創造する市民の文化」をテーマに、児童・生徒による文化芸術の発表の機会を設けることにより、次世代の文化の担い手を育み、新しい文化の創造や先人達から培ってきた地域文化の伝承・発展に寄与するとともに、宮古島市の文化を広く発信することを目的とする。
○展示部門 (書道展・美術展・文芸展(俳句・短歌・作文・詩)・自由研究展・工作展)	
○発表部門 (郷土のお話大会・音楽祭)	
○表彰式	
2) 一般の部 (主管:宮古島市文化協会)	目的:「創造する市民の文化祭」「MeMeMeの芽」をテーマに、これまで培ってきた芸能や技術の向上を図ると共に発表の機会を設け、多くの市民が参加し芸術文化に対する理解と認識を深めることを目的とする。
○展示部門 (書道・美術・華道・写真・文芸・織物・生活文化・盆栽・園芸・茶道)	
○郷土史部門 (島内戦跡巡り)	
○舞台部門 (音楽祭・芸能祭・芸術劇場・こどもシアター)	

【実施状況】

1) 児童・生徒の部		決算額 (財源内訳)	
○展示部門	10月22～23日 (書道・美術・文芸・自由研究・工作) 出品状況:小(2,796点)、中(536点)、高(157点)、特支援(98点)	国・県	円
○発表部門	11月6日 (音楽祭) 出演状況:486人	地方債	円
○表彰式	12月3日 (オープニングセレモニーで郷土の民話発表会実施)	その他	円
2) 一般の部		一般財源	2,128,564 円
○展示部門	10月14～16日 (書道 他10部門)	計	2,128,564 円
○郷土史部門	10月16日 (伊良部地区の史跡めぐり)		
○発表部門	11月20日 音楽祭		
	12月4日 芸能祭		
	2月5日 芸術劇場 (金井喜久子生誕110年記念演奏会)		
	3月5日 こどもシアター (おはなしと人形劇)		

【担当者の説明】

区 分		評 価 事 由 等
必要性	本文化祭は、市民各層の文化活動の拠点であり、ニーズは高い。	総合評価：A (拡充) 本文化祭は、市民各層の文化活動の拠点であり、ニーズは高く、市文化行政の要として文化活動への市民参加の促進、関係団体の育成や連携強化に努め、創造性豊かな芸術文化活動の活性化を図るための施策として重要である。 しかし、現在児童生徒の部・一般の部と別日程で行っており、一堂に開催することで、島内の文化活動が広くより大きな効果が得られると思われるため、今後は合同開催へ向け調整が必要になってくる。
効率性	各々展示方・運営等は効率的に取り組んでいるが、児童・生徒の部、一般の部と日程が別なため、合同にするとより効率的になる。	
有効性	文化活動発表の場を設けることにより、数多くの出品、来場者がいることから有効的といえる。	

【内部評価】

趣味や特技は日々の暮らしを豊かにし、人生に潤いをもたらします。市民総合文化祭は趣味や特技を持つ市民に発表の場を提供し、作品を鑑賞する市民の文化的、創造活動への契機なる。今後も宮古島市文化協会と連携し、芸術文化に触れる場を提供します。又、次世代を担う子供達へ伝統文化の継承を図り、文化の担い手育成に努め、新しい文化の創造や文化活動に参加する市民の底辺拡大、更なる文化芸術の振興と活動の拡充に努める必用がある。

総合評価

A
(拡充)

【外部評価】

毎年、多彩な催しを企画しご苦労さんです。市民や児童生徒の隠れた才能を発見する場を提供することによって、宮古島市がスポーツだけでなく芸術文化面でも秀でた地域だということを再確認することができます。今後は、各地にできた新しい施設を活かし、スタンプラリーじゃないですが各地の催し物を見て回るような企画をしてください。

総合評価

A
(拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課 名： 宮古島市総合博物館

【主要施策】

IV 文化振興 文化の振興と文化財の保存・保護並びに活用の推進

【事務事業名】

博物館企画展

【目的・計画概要等】

- ・ 宮古島に生息する危険生物に焦点を置き、身近にいる昆虫・海洋生物・陸上生物などを紹介することで、危険回避を含め、自然界の営みを改めて考察するきっかけとする。
- ・ 地元出身で創作活動を行っている作家の方々の作品を展示することで、文化活動の推進を図る。
- ・ 慰霊の日を迎えるにあたり平和展を開催し、戦争の悲惨さ、平和・命の尊さについて今一度考える機会とする。

【実施状況】

	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
○第30回企画展「宮古の危険生物」 期間：H28. 7. 20(水)～8. 31(水) 入館者数：3, 605人 ・ 関連講話「宮古の危険生物について」 日時：H28. 7. 30(土) 14:00～16:00		
○第31回企画展「現代宮古の作家たちX」 期間：H28. 10. 28(金)～12. 11(日) 入館者数：1, 887人	地方債	円
○特別展示 慰霊の日特別展示「宮古における日本軍の展開」 期間：H28. 5. 27(金)～6. 26(日) 内容：2015年新たに発見された戦争遺入館者数：1, 479人 ・ 関連行事「戦跡巡り」 日時：H28. 6. 19(日) 9:00～12:00 内容：二重越の地下壕群、下里添の野戦重火器秘匿壕群、東保茶根の戦争遺跡群巡り	その他	円
	一般財源	204, 100 円
※企画展開催期間中の来館者は、年間入館者の約49%となっている。	計	204, 100 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	常設展を補完することと、様々な題材を提唱する上で必要である。	総合評価：A（拡充） 個人が情報を手軽に入手できる現況にあって、博物館事業の視点を集約して利用者に伝えることは、情報の重複などを視野に企画しなければいけないため表現は容易ではない。そのためには担当者は日頃から多くのアンテナをめぐらす必要がある。 昨年の外部評価に示されているように、ファシリテーターの役割を自覚し、新たな表現方法を模索しながら利用者の満足度を高める努力と、それに見合う企画力を身につける必要がある。そのために異業種交流を率先して行うことも重要と考える。発信者は向上心をもち、需要との相関性を意識すべきである。
効率性	収蔵品の中から選別することで開催できるので、効率的と考える。	
有効性	多様な事柄を啓蒙する機会として企画展は有効と思う。	

【内部評価】

企画展は、テーマに関心のある人の来場やリピーターの来館が期待できる。テーマにより収蔵庫の資料の活用や、他館から貸借した資料などで常設展の内容を深めることができるなど、企画展は博物館の重要な活動である。今後も継続して、拡充を図る必要がある。	総合評価
	A (拡充)

【外部評価】

職員の企画力と積極的な広報活動により、年々入館者が増加している。平成28年度は企画展開催期間中の入館者が、年間入館者の49%と約半分を占める。今後も常設展を補完するという役割のほかに、多くのファーストビジターを獲得し、リピーターへと繋げる重要な機会と位置付け、魅力的な企画展を開催していただきたい。

市民が宮古島への理解をさらに深められる場所が総合博物館であり、この企画展である。地域に誇りを持ち、ひいては自己肯定へと繋げられるような事業を今後も展開していけるよう、拡充を図る必要がある。

総合評価

A
(拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 生涯学習振興課

【主要施策】

IV 文化振興 文化の振興と文化財の保存・保護並びに活用の推進

【事務事業名】

埋蔵文化財公開活用事業

【目的・計画概要等】

目的

- ・これまでの発掘調査で出土した資料について再整理を行い、台帳作成をデータベース化し資料の活用の利便性を高める。
- ・出土遺物の復元作業などをすすめ、展示資料として公開していく。
- ・これまでの調査で得られた成果をもとに、文化講座を実施する。

計画概要

- ・平成29年度は北久場間岩陰墓、長南陣地壕、長南岩陰墓、地盛南岩陰墓の再整理を行う。
- ・住屋遺跡などの出土遺物の復元を行い宮古島市総合博物館にて展示を行う。
- ・考古学などの専門家の招聘を行い、全5回の文化講座を実施する。

【実施状況】

<ul style="list-style-type: none"> ・北久場間岩陰墓、長南陣地壕、長南・地盛南岩陰墓の再整理を行った。 ・住屋遺跡出土資料を宮古島市総合博物館第1展示室に常設展示した。 ・以下の全5回の文化講座を実施した。 ①「サンゴ島に生き、文化を築いた人々-浦底遺跡から考える新しい文化像 ②「グスク時代に拓かれた新たな交易ルート-出土陶磁器から考えるグスク時代の物流- ③「宮古島のグスク時代農耕はどのようなものだったか？」 ④「先島の人類史解明を目差して～宮古島の人骨調査から～」 ⑤「遺跡から見えてきた自然災害の痕跡-先島諸島を中心にして- 	決算額（財源内訳）	
	国・県	5,498,000 円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	1,202,314 円
	計	6,700,314 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	文化講座には毎回約30名近い参加があり、質疑も活発である。	総合評価：B =（継続） 資料の再整理を行い台帳をデータベース化することによって、資料利用申請者に対しての活用の面で非常に利便性は高いものとなった。 また、遺跡から出土する破片資料を復元することで、視覚的にも一般的に理解しやすくなり、博物館で展示することで活用を図ることができた。 文化講座は、島外からの専門家を招聘しての講座で、宮古の歴史を考えていく上での有意義なものになったといえる。
効率性	資料の再整理については委託契約を締結するなどして効率性を高めている。	
有効性	考古学や歴史などの視点からの郷土史への関心の高まりはみられる。	

【内部評価】

これまで実施された発掘調査における出土遺物など収蔵資料の再整理を行い、これまでの紙台帳からデータベース化へ管理方法を変更することで収蔵資料の活用の利便性も高まり、効率化が図られことから、継続して事業の推進を図る必要がある。	総合評価
	B （継続）

【外部評価】

<p>これまでの発掘調査で出土した資料の再整理と台帳のデータベース化を進め、活用の利便性を高めつつ、効率化も図られている。またデータベース化によってデータを恒久的に保存できるという利点もある。</p>	総合評価
<p>地域にとって貴重な遺産である埋蔵文化財を市民により身近に感じてもらうため、今後も定期的な公開が必要である。復元事業も進めながら、宮古島市総合博物館と連携し、より多くの市民の目に触れられるよう事業を継続する必要がある。</p> <p>また、調査の成果をもとに実施されている文化講座は市民の関心も高く、今後も考古学の学びの場を市民に提供し、地域の歴史、文化への理解を深める役割を担っていただきたい。</p> <p>国や地域の歴史と文化の成り立ちを明らかにするうえで欠くことのできない埋蔵文化財。今後その歴史資料を活用しながら、地域住民が地域に愛着を持ち、歴史を生かした個性あるまちづくりに取り組めるよう、事業を継続し、働きかけていく必要がある。</p>	B (継続)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：文化ホール

【主要施策】

IV 文化振興 文化の振興と文化財の保存・保護並びに活用の推進

【事務事業名】

自主文化事業 「2016ダンスキャンプin宮古島」 「マティダストリートダンス2017」

【目的・計画概要等】

「生きる力」を育むことを目的に学習指導要領にも取り入れられている「現代的なリズムダンス」を通して、学生による新しい地域文化の創造、交流、仲間との共感／一体感を育むことを目的に、「マティダストリートダンス2017」を開催する。また、開催にあたり学生の表現力の向上を目的として、プロダンサーによる指導を組み込んだワークショップ「2016ダンスキャンプin宮古島」を実施する。

【実施状況】

「2016ダンスキャンプin宮古島」平成28年8月23～25日（火～木） 参加校：宮古高校・八重山高校・首里高校・平良中学校 計140人 活動状況：実行委員会・製作会議・演出会議・技術会議・進行台本制作 告知活動・ダンス講師によるレッスン・ダンスコンテスト 「マティダストリートダンス2017」 参加校：宮古高校・八重山高校・首里高校・普天間高校・平良中学校・ GBダンススタジオ 計93人 入場者数300人 活動状況：実行委員会製作会議・演出会議・技術会議・進行台本制作・ 告知活動・本公演	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	280,050 円
	一般財源	1,860,873 円
	計	2,140,923 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	学習指導要領で必修化され、教育的観点からも必要な事業。劇場アンケートでダンス公演要望多数。	総合評価：B（継続） 沖縄本島・宮古・八重山地区の学生がストリートダンスを通じて交流することで、互いの表現力を高め、ダンス講師陣が演技指導のみならずダンスの種類や歴史をレクチャーし、ダンスの中身についてより深く学ぶことが出来た。また、県内コンテストの優秀作品演技やプロダンサーの演技を鑑賞することで、ダンスに対するモチベーションも高まりスキルアップが図られた。
効率性	2回に分けて事業を実施したが、事務や制作作業が重複した。効率性をあげるため、日程の再検討が必要。	
有効性	プロダンサーによる指導は、質の高い表現力向上に必須であり、事業にとって有効である。	

【内部評価】

他地域の学生と交流することにより、仲間との共感・一体感を育むことが出来、「生きる力」を育むことの助になったと思う。また、講師陣の親切丁寧な指導によりダンスに対する認識も深まり、表現力の向上も図られたと思います。蛇足ですが、教育現場では講師によるダンス指導が難しいと聞くので、そのサポートが少しでも出来ればと考えます。	総合評価 B （継続）
--	-------------------

【外部評価】

「子どもから高齢者まで、全市民がマティダの舞台に立てるように」という職員の熱い思いが次々と形になり、多彩な事業を展開している文化ホール。10代の子どもたちのために企画・運営した「2016ダンスキャンプin宮古島」と「マティダストリートダンス2017」は、自己表現の手段としてのダンスを通して、仲間とのコミュニケーションを豊かにしながら、自己を見つめる機会となっている。 学習指導要領では中学校・高校の保健体育において、ダンスも必修となっているが、専門的な指導者の不足が課題となっている。そのような中、プロの講師陣によるダンス指導の場が提供される意義は大きい。 ダンスは、表現や踊りを通じた交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動であり、身体で表現するアートである。このプログラムに参加した子どもたちが、他地域との学生との交流を通して、地域を見つめ、地域の新たな文化創造の担い手として、活躍することを期待したい。	総合評価 B （継続）
---	-------------------